

## 令和4年度 第2回 学校運営協議会 議事録

日時：令和4年12月6日（火）15：30～17：00

場所：校長室

出席者：友谷委員、西田委員、速水委員、西川委員、川上委員、山岸委員  
佐々木校長、坂口教頭、轟事務長、金子首席、永野首席、住友指導教諭

### 1 会長挨拶

山田高校の発展のために是非忌憚のないご意見をおねがいたします。

#### 校長挨拶

- ・生徒をいかに伸ばすかを中心に据えた学校経営を心がけている。生徒たちは順調に伸びている。
- ・修学旅行は、一昨年は新型コロナの感染拡大により中止、昨年は行き先の変更を余儀なくされたが、今年は3年ぶり予定通りに沖縄（久米島）で実施することができた。飛行機に4回搭乗したが、そのたびに乗務員から「礼儀正しい生徒さんたちですね」とお褒めの言葉をいただいた。
- ・（教頭より 修学旅行に関して補足）ホームページ修学旅行ブログに修学旅行の様子を掲載している。

### 2 令和3年度学校経営計画について（佐々木校長より進捗状況の説明）

- ・1ページ目はすでに提示した設定目標のため割愛。
- ・2ページ目以降について進捗状況を報告。  
学校教育自己診断は12月中旬に実施予定のため、評価指標としている部分は次回に報告する。
- ・前回は委員のみなさんより学校協議会よりSDGsへの取り組み、部活動の充実への期待のご意見をいただいた。

#### ○教育力の向上

- ・観点別評価については昨年度試行、今年度より本格実施となった。順調に進んでいるが、教員の負担は増えた。知識・技能、思考・判断・表現に加え学びの姿勢の評価にはかなりの労力を要する。
- ・BTについてはアンケートの実施が年度末になるため、次回に報告する。
- ・図書館については利用者数が減少している。貸出冊数も減少している。この点についてはいろいろ検証する必要があるが、進路資料室に自習スペースを新設したことも影響しているかもしれない。
- ・SDGsの取り組みについても第3回で報告する。一例を挙げると、夏に2年生が「SDGs in 万博記念公園駅」で取り組みを発表。ポスターセッションや「書き損じはがき」「不要切手」の回収、「フードストック」などに取り組んだ。当初予定のレポート発表を超えた取り組みができたと考えている。
- ・インターネットを利用した教育産業学習ツールの活用については「スタディサプリ」を活用している。教員の手間は大幅には軽減し切れていないが、今後さらに取り組む。
- ・授業力向上について、プロジェクターや端末は殆どの教員が活用している。生徒の1人1台端末も活用させている。
- ・授業アンケートにおける「思考力・表現力が身についた」は昨年度の83.1%から85.1%に、「興味関心、知識技能」の平均肯定割合は84.4%から84.8%にわずかながらも向上し目標の80%以上を達成している。
- ・生徒が主体として発表する授業も増えた。

- ・ ICT を活用した授業・生徒を主体にした授業の公開については初任研 2 回、英語科教員の研修で 1 回、保護者対象に 4 回、中学生・保護者対象に 2 回、校長会の専門委員会で 1 回の計 10 回を実施。
- ・進学実績については第 3 回で報告予定。補習や講習も進路指導部を中心に例年どおり組織的、計画的に実施している。
- ・卒業生によるキャリア教育として教育実習生 14 名が各学年にホームルームで講話した。
- ・オーストラリアの姉妹校であるベントレーセカンダリーハイスクールとは、新型コロナの影響で相互訪問は中止しているが、メールのやりとりで交流を行った。現状においては次年度の海外研修を中止の方向で考えざるを得ないと考えている。

#### ○豊かでたくましい人間性のはぐくみ

- ・部活動の加入率は学校全体で 85%。1 年生だけでは 91.2%。
- ・修学旅行アンケートは今後実施するが、環境も現地での対応もよく、生徒の表情からは高い満足度がうかがえる。
- ・体育祭、文化祭も予定通り実施することができた。
- ・遅刻数は昨年この時期で 645 人だったものが今年は 622 人。少し減っている。
- ・頭髪には殆ど違反者なし。スカートの丈が短い生徒が少し増えた。
- ・自転車マナーの向上についても生徒指導部を中心に声かけを重ねている。大きな事故は起こっていない。近隣から情報提供があれば、現場に出向いて適宜対応している。
- ・トイレ、廊下も概ね清掃が行き届いている。大掃除もきちんとしている。
- ・年 1 回の人権研修は 9 月に実施。同和問題について校長が講話。その後のアンケートでは「わかった」「気づいた」という表現が目についた。
- ・安心して安全な学びの場づくりに関して、いじめの重大事案は確認されていない。アンケートの中で「嫌なことをされた」というものはあったが聞き取りを行う中で、ほとんど解消されており、特に問題になるような内容は確認されなかった。
- ・感染症対策についてはきちんとできている。マスク脱着の「適切な指導」は難しい。コロナ感染に関わる人権侵害は確認されていない。

#### ○学校の組織力向上と開かれた学校づくり

- ・学校運営の連携は取れている。
- ・課題としては、職員室・準備室が教科別になっており、担任団が一同に集まる機会が週 1 回の担任会議だけである。学年毎の密な情報交換の場を設けたいが物理的な問題（場所の確保が難しい）があり、今後も検討を続けたい。
- ・超過勤務月間 80 時間以上の教員は昨年度 21 名であったが、今年度は現時点で 21 名となっている。1 人 1 台端末の活用、観点別評価、部活動の指導なども業務量増加の主な原因になっている。健康を害しているところまで至っている教員は確認していない。
- ・地域との連携では、コロナ禍で行事が中止になっている。また、地域の教育を担う人々が高齢化している。12 月 23 日に、地域の方々とともに、地域清掃を予定しているので、交流もできれば良いと考えている。
- ・中学生や保護者に必要な情報を伝える学校説明会については昨年度の 7 回から 5 回に回数を減らしたものの、参加者数は 2330 人と募集人数の 3 倍以上の中学生、保護者が見学に来たことになる。
- ・学校自己診断はこれから実施し、その結果を踏まえて第 3 回で報告。

## 坂口教頭による補足

### <進路指導に関連して>

- ・就職希望者は0名、公務員受験は2名、共通テスト申込者は188名と昨年度より増加。国公立大希望者だけでなく、私立大学の共通テスト利用入試を考えているようだ。
- ・学校推薦型（旧指定校推薦）で進路確定した生徒は昨年より若干増えた。
- ・校内実施の大学説明会や保護者対象進路説明会への出席も多い。
- ・今後、1・2年生にも進路ガイダンスを実施。1月14日（土）には学力診断テストを実施予定。

### <ICTに関して>

- ・平成27年度から全教室にプロジェクターとスクリーンを設置し、ICTを活用した授業実践を重ねてきた。昨年9月の1人1台端末の配付に先立って、府のモデル校としてクロームブックを先行して貸与していただき、教員にもいち早く1人1台端末を貸与し、取り組みを他校にも発信してきた。クロームブックを利用したオンライン授業で、感染者、濃厚接触者の学習保障に努めた。こうした取り組みが評価され、来年度から「リーディング GIGA ハイスクール」のモデル校30校のうちの1校に採用された。全HR教室に電子黒板機能付プロジェクターが設置される。

### <ホームページについて>

- ・今年度ホームページをリニューアル。スマホにも対応したデザイン、管理しやすいホームページになった。

## 佐々木校長による補足

### <図書館管理について>

- ・保護者対象授業公開の際、図書館の見学もしてもらった。中学生の学校見学会時にも図書館を公開した。
- ・生徒による図書選定購入も7月に実施できた。

### 3 スクールミッションについて（佐々木校長より）

校訓に基づき、生徒の夢を実現すべく、自尊感情、自主性、そして自ら進路実現する力を育むことを念頭に置いて策定した。

### 4 学校教育自己診断について（坂口教頭より）

3年生は11月30日に実施済。1・2年生は今月中旬に1人1台端末のフォームへの入力形式で実施予定。保護者に対しては、メールで案内、フォームへの入力形式で回答していただく。保護者からの自由記述欄には記名を求めることに変更した。結果については次回報告する。

### 5 令和5年度使用教科書選定報告（坂口教頭より）

府民・保護者の立場になって、客観的な基準で選定した。選定理由を確認していただきたい。

### 6 質疑応答・意見交換

委員：キャリア教育講演は教育実習生が行ったということだが、教育実習生の教科に偏りはないのか。

事務局：本年の実習生は14人で、多少の偏りはあるが、家庭、情報以外は各教科に1名以上はいた。

委員：キャリア教育講演で、実習生はどのような話をしたのか。

事務局：高校時代の進路決定までの道のりや今学んでいることを将来どのような方向につなげていかなどについて話してもらった。次年度の科目選択を控えた生徒に参考になったと思う。

委員：教員が学年での情報交換が課題とのことだが、中学校では週に1回学年会議を行い、生徒指導や行事について情報共有を行っている。高校ではどのようにされているのか。

事務局：担任会は週に1回実施している。学年会議は特に必要が無ければ年に1回程度。日ごろから学年毎に情報交換のできるスペースを設けたいと考えているが、職員室に60人以上の席を設けるのは不可能。空き教室を利用する場合、給排水設備の整備が困難。今後のクラス数の増減に影響されるので常設はできない。学年への問い合わせ電話は事務室や教頭が取り継いでいるが、学年ごとの直通電話ができるとスムーズに連絡できる。

委員：職員室・準備室が教科ごとになっている学校が多いのか。

事務局：それぞれの学校の生徒の状況に合わせた形になっていると思われる。

委員：部活動の加入率を90%以上にしたいということだが、もし入りたい部活動がなければ、新しい部・同好会を設立する手続きを生徒に周知すると加入率向上の方策ではないか。

委員：新型コロナウイルス感染症以外にも梅毒などの性感染症も増えてきていると聞く。高校では生徒が正しい知識や対策を学ぶ機会はあるか。

事務局：2年生の保健の授業で取り扱っている。

委員：自転車マナー向上のために、通学のコースをきちんと決めることが必要ではないか。

事務局：学校周辺では、小・中学生の通学路と錯綜しないように、道路の左右で自然に棲み分けしながら通行しているようではある。

委員：観点別評価により、成績処理が複雑になったとのことだが、小学校では5年前から校務処理システムを導入している。高校ではどうか。

事務局：高校でも校務処理システムを導入しているが、これだけで業務量を減らせるところまでいかない。実際に評価を確定するまでの途中段階でかなりの業務量がある。通知票・指導要録などはシステムからプリントアウトできる。

委員：大学では、板書内容をスマホで撮影する学生が多い。高校ではどうか。

事務局：授業中の撮影は認めていないが、自習時や授業終了後などにはメモ代わりに撮影している生徒はいる。グーグルクラスルームに入れている質問メモや資料などは適宜保存しているようだ。

委員：小学校では支援を要する生徒には撮影を認めている。

事務局：動画や画像で保存する習慣がつくと書写する能力が低下するのではないか。

委員：動画や画像で教えた内容を保存されることには抵抗がある。

委員：教員の負担軽減のため他校と合同で部活動を指導するという報道を耳にしたがどうなっているか。

事務局：本来はパイロット校で実施してから全体で取り組むという話だったが、いきなりの実施では個々の学校の実情に合わず、教員の負担軽減になるとは考えにくい。各校の生徒の感情にも配慮が必要と考える。形式だけを追うと、本来の部活動の意義が薄れてしまう。

委員：現状では他校との合同練習は行っていないのか。

事務局：いくつかの部で行っているが、その際も必ず教員が付き添っているので、負担軽減にはなっていない。

事務局：とにかく、教員の人員確保と業務精査などの意識改革も必要だと考える。

教員のなり手が少ない、代替教員もなかなか見つからない現状がある。

## 7 諸連絡

議事録は確認いただいた上でホームページに公開したい。第3回は2月を予定。